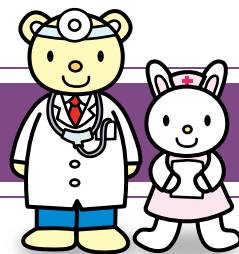


# 保健管理センターだより



## 長引く咳に注意を！

### ・・・忘れていませんか？ 結核のこと。

遠い昔の病気のように考えられがちな結核。しかし、現在でも世界人口の約3分の1が感染していると言われ、日本国内だけで毎年2万人以上の患者さんと2千人以上の死者が出ています。人口10万人あたりの新規患者数は19.4人(平成20年1月～12月)で、日本は未だに結核蔓延国の域を脱していません。神戸大学でも定期健康診断の機会などに、活動性結核(治療が必要な結核)と診断される方が毎年3名程度、発見されています(左下表、参照)。2週間以上にわたって咳が続く時、「長引く風邪」のような症状のある時、百日咳とともに結核の可能性を考えてみてください。

#### 結核ってどんな病気？

結核は、咳やくしゃみによって飛び散ったしぶき(飛沫)や、飛沫が乾燥した飛沫核に含まれる結核菌を吸い込むことによって感染する病気で、大部分は肺結核ですが、腎臓や骨など肺以外の臓器が侵される肺外結核もあります。教室や研究室など、閉めきった狭い空間で感染しやすく、最近ではカラオケボックスやインターネットカフェなどでの感染も多いと言われています。結核菌に感染しても発病するのは約10～15%の人で、睡眠不足や栄養不良、ストレス、他の病気などで免疫力が低下していると発病しやすくなります。感染してから発病するまで通常半年以上かかり、微熱や疲労感、咳、痰、胸痛などが始まります。「暑くもないのに寝汗をかく」とか、「最近疲れやすい」、「食欲がない」、「体重が減る」などといった程度のこともあります。やがて、咳やくしゃみ、痰とともに結核菌を体外に排出(排菌)するようになりますが、排菌状態になるまでには通常半年から1年以上かかるとされています。

年度	活動性結核患者数(人)	留学生	職員	排菌者
		(左記の内数)(人)		
平成12年度	6	1		2
平成13年度	4			
平成14年度	6	1	1	1
平成15年度	3	1		1
平成16年度	3	3		
平成17年度	3			1
平成18年度	3	1		
平成19年度	3	2		
平成20年度	1	1		
平成21年度	2	1		1

#### 神戸大学における最近10年間の活動性結核患者の発生状況

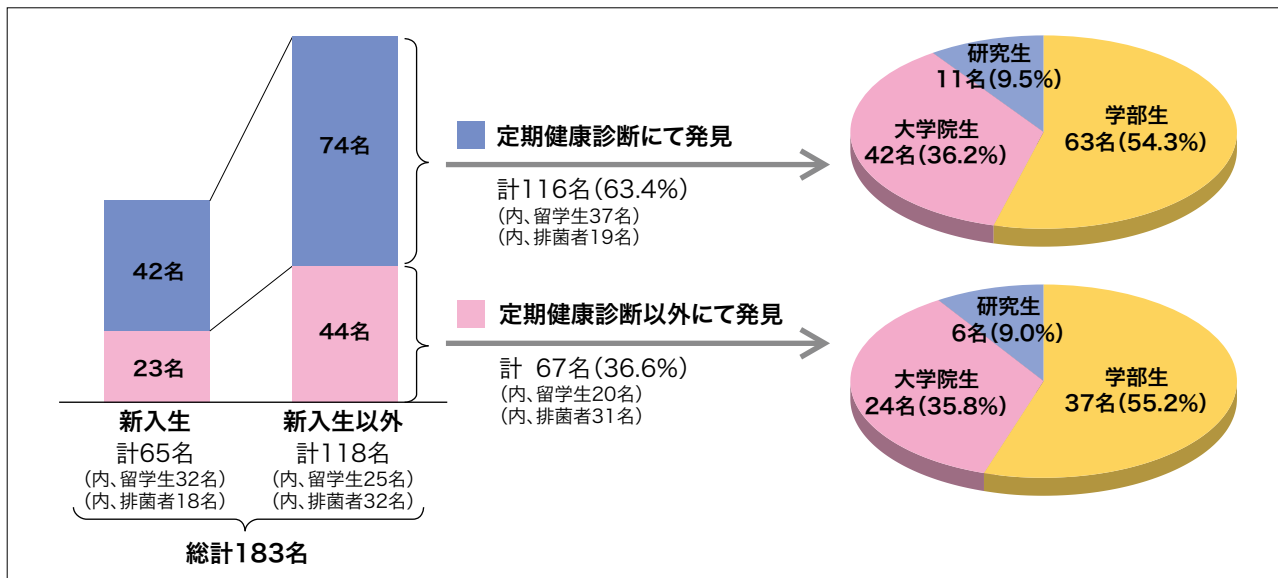
旧神戸商船大学(平成15年10月から神戸大学海事科学部・海事科学研究科)分を含む。平成12年7月と平成13年2月には排菌状態となった患者を発端とする集団感染や小規模感染が発生し、各々23人と12人が結核の発症を防ぐ薬を予防内服した。

#### 健康診断で早期発見、入院せずに治療を！

排菌状態になってしまうと、入院して治療を受けなければなりません。一方、定期健康診断などで胸部レントゲン撮影検査を毎年受検していると、排菌状態になるまでに発見されることが多くなり、修学や就労を続けながら通院で治療できる可能性が高くなります。全国の国立大学法人を対象とした4年間の調査でも、活動性結核の方の約2/3は定期健康診断で発見され、排菌状態であった方はその内16.4%(116名中19名)でしたが、定期健康診断以外で発見された方では排菌状態の方が46.3%(67名中31名)にもなっています(右上図、参照)。また、たとえ排菌状態で発見された場合でも、早期であれば入院期間が短くて済み、学業や仕事を休む期間を最小限にすることができます。定期健康診断を毎年受検することが、とても大切なのです。結核はきっちり治療すれば治る病気ですが、服薬を途中で止めてしまったり不確実にすると、薬の効かない耐性菌ができて治療が長引いたり、死に至ることもあります。全く治療せずに放置した場合には5年以内に約半数が死亡するとされています。

#### 「排菌者」発生時の接触者健康診断は・・・

排菌状態の方(排菌者)が見つかった場合には感染症法に基づいて、家族などの同居者をはじめ、履修登録されている授業や、所属の研究室・課外活動団体、アルバイト、交友関係等の状況から、患者さんと一緒に過ごす機会が多かったり時間が長かった方について、結核菌への感染の有無を調べる接触者健康診断が実施されます。もちろんプライバシーや人権の保護には最大限の配慮が払われます。接触者健康診断の目的は、症状がなくても感染している可能性のある方(潜在性結核感染者)を早期に発見して発病を防ぐ治療(予防内服)をしたり、発病している場合でも、できれば排



**国立大学法人における活動性結核患者の発生状況** (参考文献 1 より改変)

活動性結核患者の約 2/3 は定期健康診断で発見され、約 1/3 が定期健康診断以外で発見されている。定期健康診断で発見された者では、定期健康診断以外で発見された者に比べて排菌者の率が少ない。また、全体として新生児よりも新生児以外の患者の方が多い。

菌状態になるまでに発見・治療して感染の拡大が起らないようにすることにあります。場合によっては、最初に発見された方(初発患者)よりも病状の進んだ方が見つかり、初発患者もその人からの感染であったということもあります。

接触者健康診断では胸部レントゲン撮影検査やQFT (クオンティフェロン TB-2G、QuantiFERON TB-2G) 検査が行われます。QFT 検査は、血液検査によって結核菌への感染の有無を速やかに判定できる検査で、従来のツベルクリン反応検査に替えて用いられるようになってきました。日本のように結核の予防接種としてBCG接種を幼少時に行っている国では、結核菌への新たな感染がなくてもツベルクリン反応検査が陽性を示す方が多く、接触者健康診断では特に強い陽性を示す集団がある場合にのみ結核菌への感染を疑ってききましたが、QFT 検査を用いるとBCG接種の影響を受けることなく、結核菌への感染の有無を約 90%の確率で診断することができるのです。

**結核感染から自身と周囲を守る！**

結核菌への感染や発病の可能性は幼少時のBCG接種によって下げることができます。それに加え、日常から睡眠不足や栄養不良を避け、上手にストレスを解消しておくことも大切です。そして、2週間以上にわたって咳が続く時、「長引く風邪」のような症状のある時、体調不良が続く時は結核のことも考えて医療機関を受診するようにしましょう。また、結核に限らず、咳がある時には「咳エチケット」を励行してください。そうすることで、周りの人への感染の機会を少なくすることができます。また、部屋の窓を 10 cm 程度開けておくだけでも、感染の確率が下がるといわれています。人類の

歴史は「感染症との戦いの歴史」とも言われます。その戦いは今も続いていますし、今後も続くことでしょう。正しい知識とその実践が自分自身や周囲の人達を感染症から守ることに繋がるのです。

参 考

1. 木村純子, 他: 新生児と新生児以外の活動性肺結核患者の発生状況から見た, 学校保健法施行規則改定の問題点について, CAMPUS HEALTH 43(2): 77-82, 2006
2. 結核予防会結核研究所疫学情報センター編, 結核の統計 2009
3. 結核予防会編, 感染症法における結核対策 ~保健所の手引き~ (平成 20 年改訂版), 2008
4. 神戸市保健所, 結核ハンドブック, 2009

**保健管理センターは…**

六甲台キャンパス(本部管理棟2階)と深江キャンパス、楠キャンパスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検査をはじめ、日常の救急処置、健康相談(「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、健康教育、産業医活動、調査研究活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしています。また、名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

● お問い合わせ

〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1  
 [神戸大学保健管理センター] ☎ 078-803-5245  
 〒 658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1  
 [神戸大学保健管理センター深江分室] ☎ 078-431-6232  
 〒 650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1  
 [神戸大学保健管理センター楠分室] ☎ 078-382-5006

● 保健管理センターだより 77

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」から引き続き連載)  
 保健管理センターの詳細につきましては、  
 保健管理センターホームページでも案内しています。  
<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>